

第3回ワークショップ（8月18日 茂庭台地域）のまとめ

論点	項目	ワークショップで挙げられた課題	ワークショップで挙げられた対応策
担い手に関する課題	担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・地域諸団体の活動の担い手不足。 ・身寄りがいない方への声かけ支援などを出来る人材・グループが必要。 ・支援が必要な人が増え、支え手募集の際に負担感が大きい。 ・若者が地域から離れており、転出が転入を上回っている。 ・地域役員の固定化・後継者の不足。 ・活動を支える人の高齢化。 ・地域内の若い人にボランティア参加を呼び掛けても、なかなか集まらない。 	<p>既存の地域活動を活かした人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連合町内会の人材育成。 ・町内会役員の育成。 ・得意分野を活かす工夫。 ・小さいころからの福祉教育（助け合い意識）。 ・隣組（向こう三軒両隣）の構築。 ・町内会・老人クラブを活用した育成。 ・運動会・お祭等の集客機会の利用。 ・高齢の方もできることをしてもらう。 <p>理解を深める・学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症への理解をすすめる。 ・高齢者への接し方を考える（個人意識）。 ・認知症の人との関わり方を学ぶ。 ・認知症の理解促進・意識改革（知られたくない→お互い様の意識の醸成）。
	活動環境	<ul style="list-style-type: none"> ・活動におけるリスク管理。 	
つながり・場づくりの課題	地域コミュニティの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしが増加・老人世帯の増加。一人ひとりの生活を知ることができない。 ・ご近所の関わりが少なくなっている。 ・団地の関わり方（希薄で動けない）。 ・近所で家族の構成がわからない。 ・外に出る回数が少ない。 ・地域活動への不参加。興味が薄い。 ・高齢者の顔（姿）が見えない。 ・家にいる人に外に出てもらうのが難しい。 ・独居高齢者の状況把握が難しい。 ・個人情報関係で認知症の方の把握が難しい。 ・支え合いと言いつつ、放っておいてという世間になっている。 ・地域との関わりを持ちたくない人が増加。 ・町内会未加入世帯の増加。 	<p>地域の中で話し合いの場を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に行ける場所があると良い。 ・ふれあいサロン等好きなものが選べる色々な内容設定。 ・町内会単位でサロン開催（出入りしやすい）。 ・町内会の班を活用した見守り。 ・〇〇教室を作る。メニューを増やす。 ・病院の中にサロン。 ・異世代・多世代の交流。高齢者と若者・子供との結びつきを強める。 ・年代別の会合で何が出来るか考える。 ・情報共有のための場をつくる。 ・老人クラブや健康体操などの際に、時には情報交換の場をもつ。
	話し合い、集い、活動の場不足	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会（地域）で参加できる行事が少ない。 ・お茶会出来るような環境が少ない。 ・自由な活動場所の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの在り方、特徴に併せた体制づくりのために、地域の問い直しと共有。 ・包括ケア会議、個別ケア会議、圏域ケア会議の開催を、地域団体の情報共有の場として利用することで、要援護者の支援だけでなく、支援者の支援もできる。
連携強化に関する課題	地域と行政の連携不足	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにSOSを出していいかわからない。 ・困難事例の対応できず、あきらめてしまう。 ・行政と住民に温度差がある。 ・地域包括ケアシステムへの理解不足。 	<p>地域ネットワークの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会単位での声かけ、安否確認。 ・地域ケア会議の充実・定例化。 ・町内会と他団体との連携。
	地域の連携不足	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内のケアマネ、地域包括支援センター、町内会、病院、地区社協（福祉委員）、民生委員、地域内の施設、マンション等管理会社等との連携や情報交換が不足している。 ・地域の団体同士の連携が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医との情報共有システム。 ・情報の収集と共有を図る。

第4回ワークショップ（9月3日 復興公営住宅支援者関係）のまとめ

論点	項目	ワークショップで挙げられた課題	ワークショップで挙げられた対応策
担い手に関する課題	担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による役員の担い手不足、行事の手伝い不足。 ・若い方の参加・取り込み方。 ・支援する方を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復興住宅での行事は、土日に開催することが多い。 ・行事の内容をバラエティ化。 ・集まりやすい日程や交流会の内容を検討する。
リーダーシップに関する課題	リーダー・推進役	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめる中心者をだれにするのか。（中心団体は？）。 ・どこがリーダーシップをとるのか。 ・キーパーソンの発見。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会連合会長と日頃より意思疎通しておく。 ・町内会連合会会長が各団体の特色を正しく把握してまとめる。 ・地区社協や民生委員が連合町内会をバックアップして進める。
ネットワークに関する課題	活動の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ役と実際の活動者が違うため、連絡等、情報を正しく伝えられるか。 ・連携のきっかけづくり。 ・情報の共有。 ・地域での連帯感づくり。 ・役員間の人間関係。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いの共有から共感、協働につながった。 ・支援体制を作る前に、勉強会を開催し、理解を深めた。 ・大学の先生から協力をもらい、支援者の会を運営した。 ・支援者の会での活動を、地域に向けて報告会を実施した。 ・大人をつなぐ際には、子どもにも参加してもらった。 ・普段からの情報交換（他団体を知る）。
	ネットワークの構成	<ul style="list-style-type: none"> ・どの圏域でネットワークを作るか。 ・団体のどのような立場の方に中心になってもらうか。 ・地元町内会との関係づくり。 ・地域団体以外の団体の参加。 ・時間経過とともに、活躍できる団体が限られてくるのでは？ 	
	ネットワークの方向性・目的の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のネットワークとの整合性。 ・集約化が必要。 ・ネットワークとして支援する今後の分野決め。 ・ひとつの目的を達成した後の、継続や目的設定。 ・支援する期間設定。 ・支援者連絡会の存続。 	
場づくりの課題	コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいふるさとづくりとしての意識を高める。 ・従来からの住民との意識の壁を取り払う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会室を上手に使う。 ・個人の方で家を解放し皆で集まる。 ・鍵の管理（集会所を借りやすくする）。 ・多くの住宅入居者が参加できるお祭りなどの開催。 ・既存自治会の中で交流を深める。
	主体的な場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地元組織との交流をしようという思いがあまりない。 ・入居者主体の活動づくり。 ・支援の行事から主体的な行事へ。 	

論点	項目 課題	ワークショップで挙げられた課題	ワークショップで挙げられた対応策
支援活動の推進における課題	支援内容の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントだけになりがち。 ・活動のマンネリ化。 ・今活動していることが長く続けられるか、継続していけるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有
	支援対象の固定化	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加者がいつも同じ。 ・高齢者が多く、体調により行事に参加できないことから顔ぶれが固定化。 ・住んでいる方の名前・世帯の状況がわからない。 ・孤独死、一人暮らしの方の参加が進まない。 ・いままであった問題が顕在化している。 ・高齢者・子供・勤め人や独居人・障害者の交流。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供クラブを作る。 ・開催日時や活動に内容の工夫。
	支援の在り方の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者との関係づくり。 ・寄り添う支援についての理解。 ・何に困っているのかわかりにくい。 ・入居者のニーズ把握。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者に身近に寄り添い、話し合いをする。よりよく話を聞く。 ・勉強会の開催。
	個別課題への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール依存・認知症・寝たきり高齢者等、個別課題を抱える方が増えている。 ・地域支援はうまくいったが、個別支援について、どう見守りしていくか、体制づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や専門家とともに対応する。 ・民生委員と連携。 ・さりげない見守りとして、掲示板の張り替えや朝のゴミだし場面を活用しながら様子をうかがう。
	活動資金	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を推進するための費用。 ・助成金がなくなった場合の活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協に対する助成金がある。 ・集会所の使用に伴う光熱水費を町内会費の予算に組み入れて対応した。
住民の生活上の課題	住民の高齢化・孤立化	<ul style="list-style-type: none"> ・入居住民の7割が高齢者。 ・棟内での孤立。 ・一人暮らしの方の孤立。 ・家からなかなか出ようとしない人たちがいる。 ・地域も入居者も高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独自に町内会にて調査を開始している。 ・本人からの困りごと相談から、話のきっかけができた。
	住民相互の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のグループ化による孤立。 ・入居者同士のトラブル。 ・顔が見えない。隣の人を知らない。何を話していいかわからない。 ・コミュニケーションの不足。 ・高齢者が多いので、状況が変化しやすい。 ・病人が多いので不安。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班の世話人を中心にした自主的な話し合いを開催。 ・敷地の掃除を交流の機会にして実施。 ・住民同士の声掛け
	新たな生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ・共同住居の管理の問題（掃除・ゴミだし）。 ・ペット棟・管理やルールなどの課題。 ・買い物時のバスが必要。 ・年金暮らしで先行き不安。 ・高齢者世帯が多く、町内会運営が不安。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを決める。 ・ペットの会を組織する。 ・ペットとの共存について、話し合う。 ・宅配をみんなで利用。
連携強化に関する課題	関係機関との連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の仕組み・どのような支援があるのか、どこに相談すればいいのかわからない。 ・行政のリーダーシップが必要。 ・行政がどこまで介入するのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・区社協・CSW の存在が大きく、助けになった。 ・行政の力は大きな支援。 ・必要に応じた相談支援。 ・自治会結成にもっと積極的に支援する。